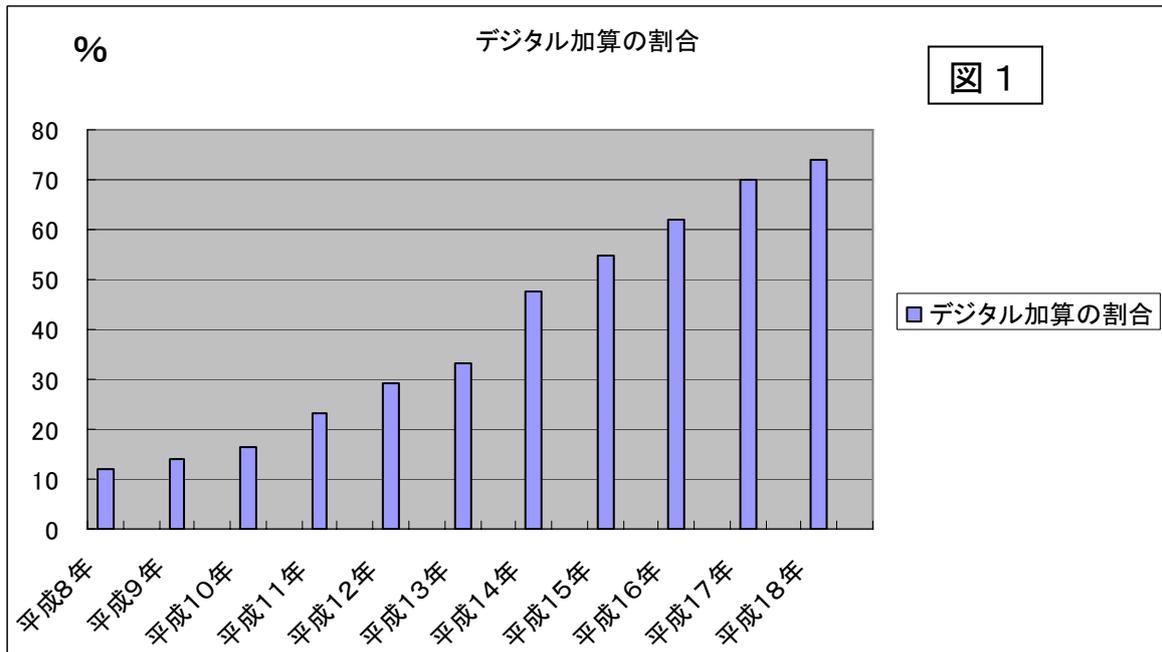


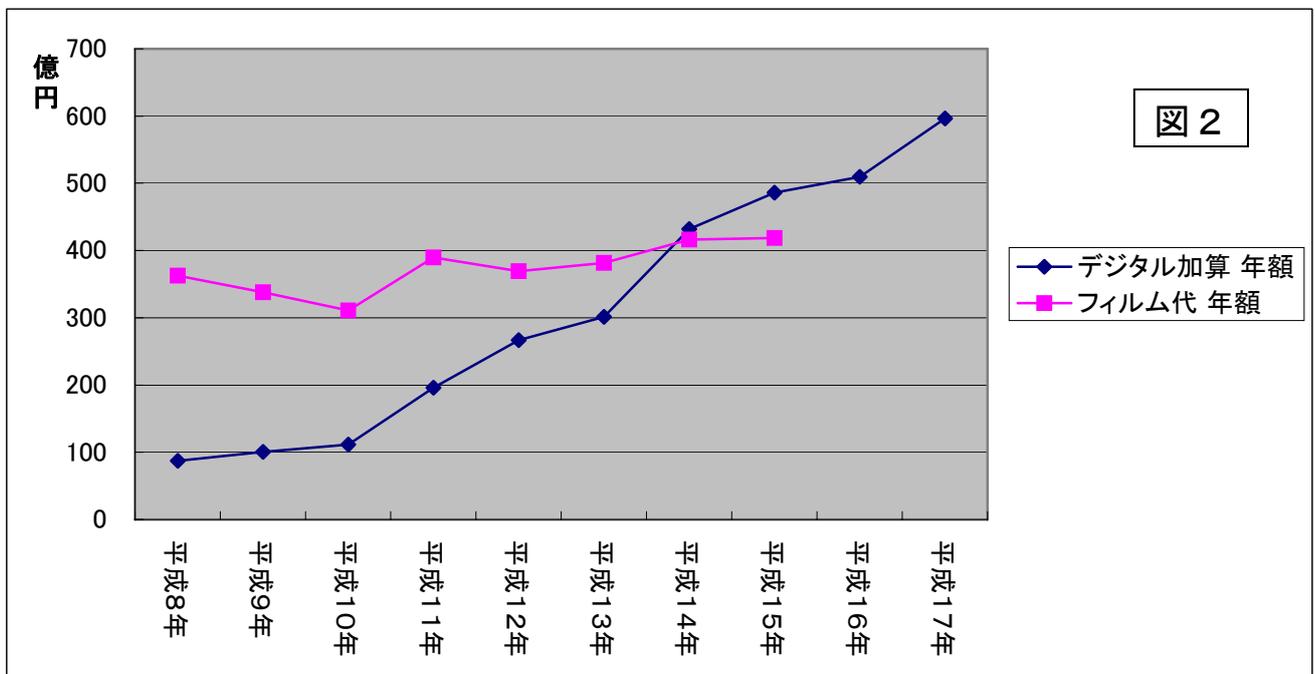
画像診断の評価について (参考資料)

診療報酬点数上のデジタル加算の割合

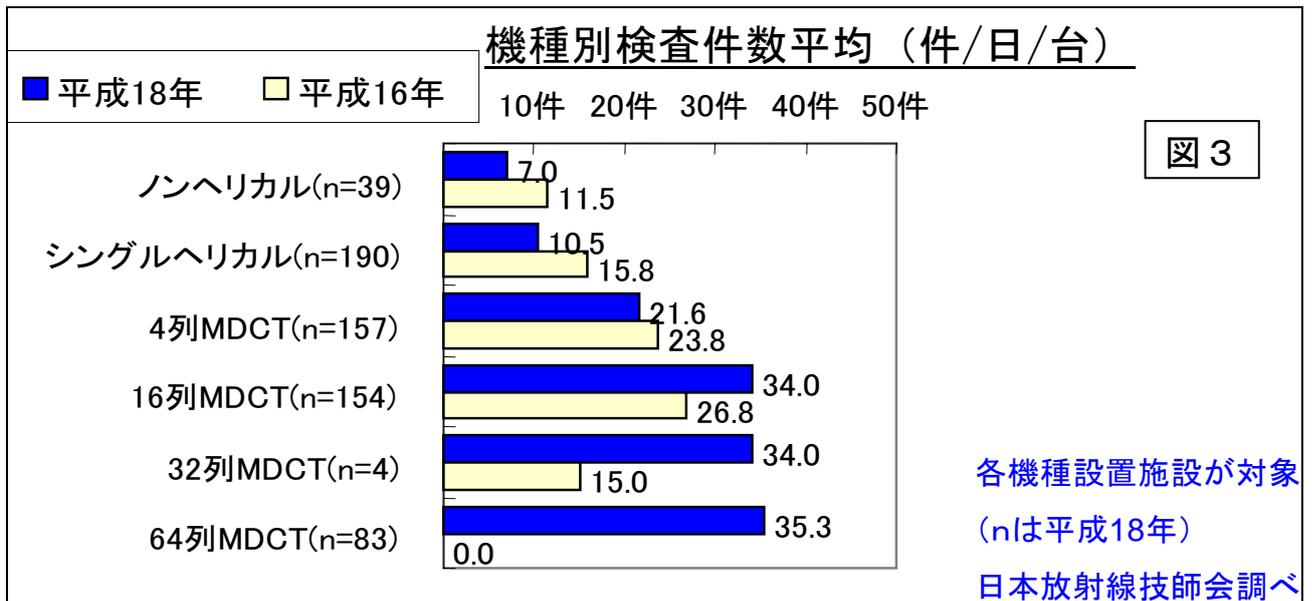


(社会医療診療行為別調査より)

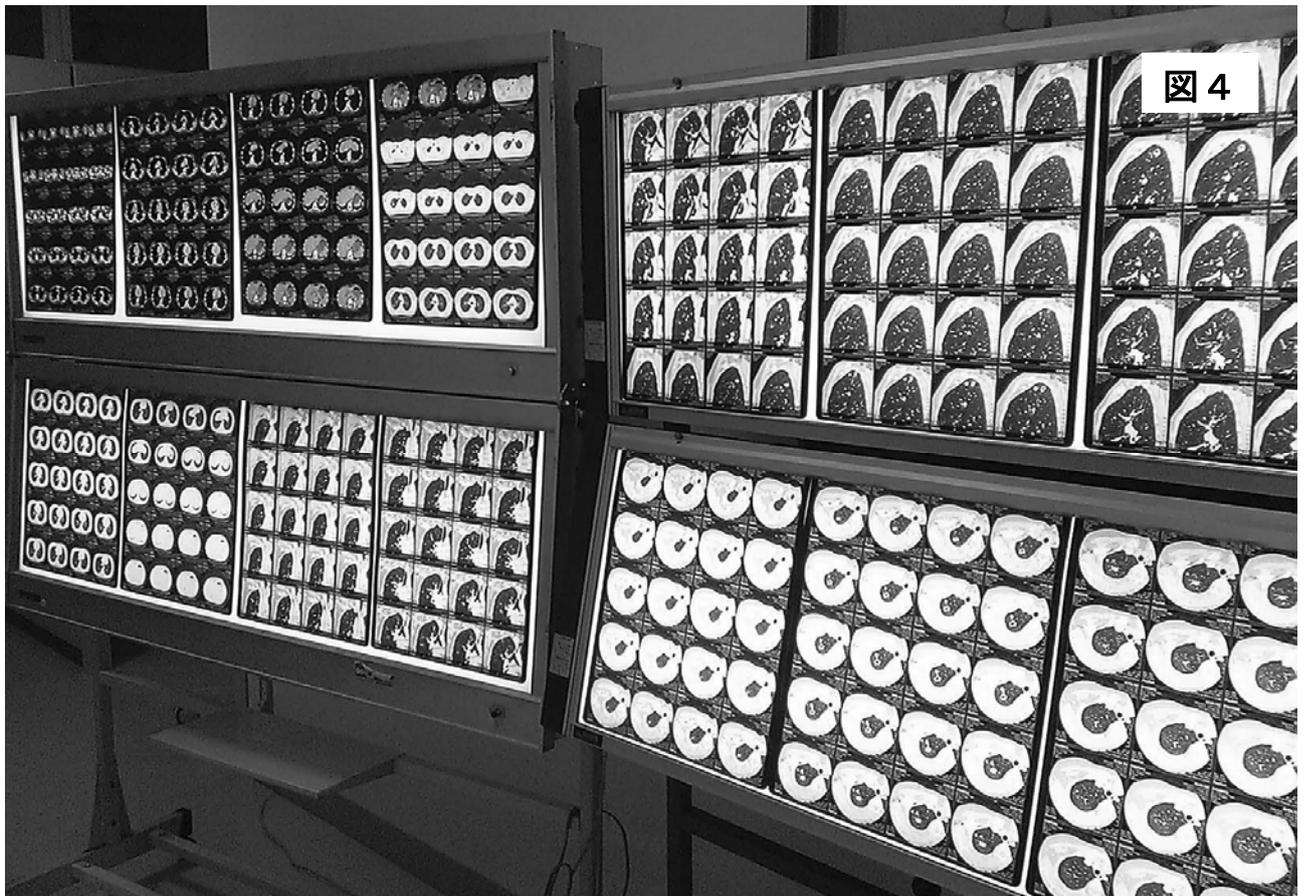
デジタル映像化処理加算(年額)とフィルム費用(年額)の推移



(社会医療診療行為別調査より)



(ヘリカルとはらせんを意味し、らせん状に撮影するCT装置をヘリカルCT装置と言う)



※多列CTにて撮影・出力されたフィルム（肺結核を疑った患者の精密検査のためのCT、1回の撮影分の約3分の1）

技術	従来のフィルム撮影	デジタル映像処理(CR法)
方法	X線フィルムを現像	イメージングプレート(X線センサー)の情報を読み取る
特徴	撮影は条件設定が難しく経験を有する	被爆線量が少ない。 常に安定した画質の画像を提供することが可能。 撮影の失敗が少ない。
フィルム	あり	あり/なし

フィルムレスとは

X線撮影やCT,MRIといった医療関係の画像をフィルムに出力せず、各所に設置したモニター(ディスプレイ)に表示するシステム

病院フィルムレス化の利点

- フィルムを使用しなくなることで
 - フィルムを使用しないことによる地球環境への配慮
 - 画像の即時利用（外来患者を待たせない）
 - 紹介医や患者への電子媒体による画像提供が可能
 - 長期保存による画像の劣化が無い
 - 電子カルテと連携させること等による業務の効率化
 - 保管場所の節約
 - 医療費削減（フィルム代削減）
 - 近年飛躍的に増大した画像のデータ量への対応が可能（フィルムでの保存は非現実的）
- 一方、院内に多数の画像表示端末と高速ネットワークが必要であり、一定の設備投資が必要